

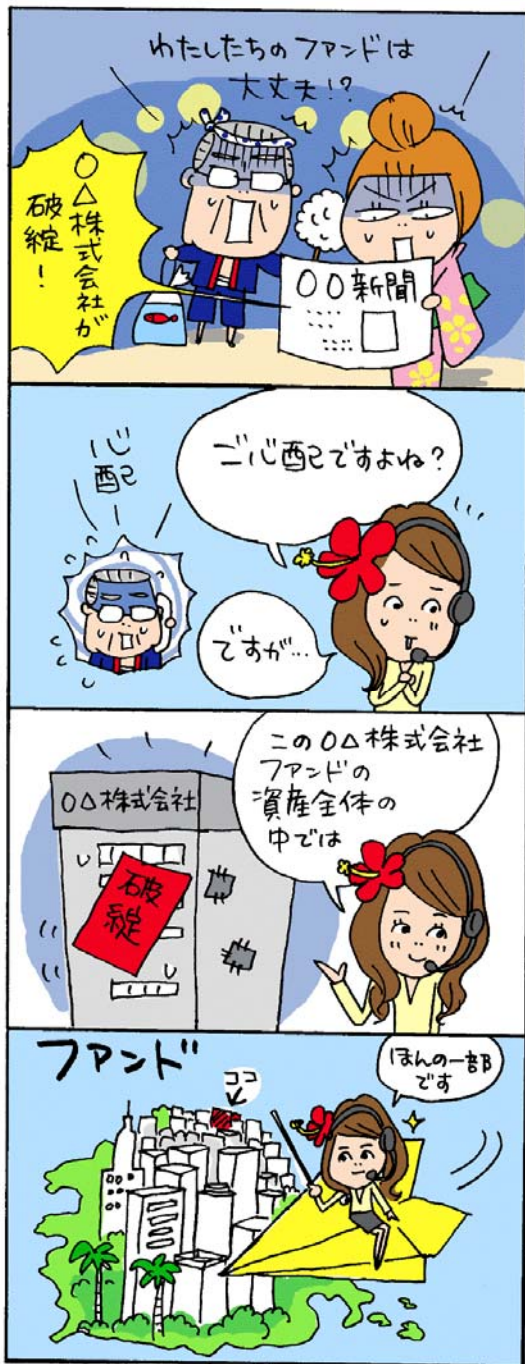
こよみ



2009年5月29日

コールセンターからの小さなよみもの

Vol.05

個別銘柄
の影響あの会社が破綻!?
どのくらいファンドに影響あるの?

このたびの金融危機による影響を受けて、企業は破綻に追い込まれたり、経営が危ぶまれたり、不安材料(要素)が取沙汰されることが多くあります。それらの報道があると「保有しているファンドに組入れられているの?」「ファンドには影響があるの?」といったご心配の声がコールセンターには多く寄せられます。

今回は、企業等の不測の事態によるファンドへの影響について、次の2点を押えていただきたいと思います。

1. ファンドへの組入比率から、直接影響を受ける範囲がイメージできます
2. 実は市場全体の動きの方が影響が大きいかもしれません



1. ファンドへの組入比率から、直接影響を受ける範囲がイメージできます

企業等が不測の事態におちいることでファンドが受ける直接の影響は、その企業の株式や債券等をどれだけ保有していたかによります。

そこで、ファンドがその有価証券を保有しているのか、また保有していた場合には組入比率がどのくらいかを知ることによって、ファンドが受ける影響の大きさがわかります。

株式や不動産投信に投資するファンドの多くは、ファンドが保有する資産の組入上位10銘柄について、マンスリーレポートで公表していますので、そこで直近の情報を確認することができます。

マンスリーレポート例

monthly report		マンスリーレポート データは2009年4月30日現在																		
財産3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型																				
株 式 ◎運用目標 「日本株式インデックス225リターンファンド」への投資を通じて、わが国の株式市場の動きをたどることを目指し、月毎平均利差(225種・東証)の動きに連動する投資成果をめざします。	<株式・組入上位10位> (銘柄数 225銘柄) <table border="1"> <thead> <tr> <th>銘柄名</th> <th>業種</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 ファーストリテイリング</td><td>小売</td><td>4.7%</td></tr> <tr><td>2 京セラ</td><td>電気機器</td><td>3.5%</td></tr> <tr><td>3 ファナック</td><td>電気機器</td><td>3.2%</td></tr> <tr><td>4 ホンダ</td><td>輸送用機器</td><td>2.6%</td></tr> <tr><td>5 信越化学工業</td><td>化学</td><td>2.2%</td></tr> </tbody> </table>		銘柄名	業種	比率	1 ファーストリテイリング	小売	4.7%	2 京セラ	電気機器	3.5%	3 ファナック	電気機器	3.2%	4 ホンダ	輸送用機器	2.6%	5 信越化学工業	化学	2.2%
銘柄名	業種	比率																		
1 ファーストリテイリング	小売	4.7%																		
2 京セラ	電気機器	3.5%																		
3 ファナック	電気機器	3.2%																		
4 ホンダ	輸送用機器	2.6%																		
5 信越化学工業	化学	2.2%																		
◎国内株式市場 国内株式市場は、主要経済指標の改善を受けた米国株式市場の上昇や、為替市場の円安基調を背景に、輸出関連株主導で急上昇してまいりました。その後、利益確定売りは押され、国内株式市場は一時下落しましたが、市場予想を上回った2月の機械受注増が好感されたほか、政府の追加経済対策および株式買い取り策への期待などから、上昇に転じました。この間、米銀大手の好業績見通しを受け、金融不安が和らいだことも、相場を後押ししました。下旬に入り、為替市場の対主要通貨での円高進行や米銀大手の資本不足への懸念などに圧迫され、国内株式市場は下落基調となりましたが、月末には、日米株の買気差入れ相替から反転しました。	<株式・組入上位10位要項> <table border="1"> <thead> <tr> <th>銘柄名</th> <th>業種</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 ファーストリテイリング</td><td>小売</td><td>4.7%</td></tr> <tr><td>2 京セラ</td><td>電気機器</td><td>3.5%</td></tr> <tr><td>3 ファナック</td><td>電気機器</td><td>3.2%</td></tr> <tr><td>4 ホンダ</td><td>輸送用機器</td><td>2.6%</td></tr> <tr><td>5 信越化学工業</td><td>化学</td><td>2.2%</td></tr> </tbody> </table> ※比率は、当マザーファンドの対組入株式銘柄数です。		銘柄名	業種	比率	1 ファーストリテイリング	小売	4.7%	2 京セラ	電気機器	3.5%	3 ファナック	電気機器	3.2%	4 ホンダ	輸送用機器	2.6%	5 信越化学工業	化学	2.2%
銘柄名	業種	比率																		
1 ファーストリテイリング	小売	4.7%																		
2 京セラ	電気機器	3.5%																		
3 ファナック	電気機器	3.2%																		
4 ホンダ	輸送用機器	2.6%																		
5 信越化学工業	化学	2.2%																		

<株式・組入上位10位> (銘柄数 225銘柄)

	銘柄名	業種	比率
1	ファーストリテイリング	小売	4.7%
2	京セラ	電気機器	3.5%
3	ファナック	電気機器	3.2%
4	ホンダ	輸送用機器	2.6%
5	信越化学工業	化学	2.2%



コールセンターからの小さなよみもの

もし問題が生じた企業が上位10銘柄にあれば、ファンドが受ける影響はある程度大きいかもしれません。しかし、上位10銘柄に名前がなければ、その組入比率は少なくとも10位のものより低いわけですから、影響はより小さくなる、と考えることができます。

債券については、マンスリーレポートでは発行企業等ごとの組入状況を発表していないため、影響を受ける範囲がどのくらいかをイメージすることが出来ません。しかし、たとえ最悪のケースとして企業が破綻したとしても、債券の場合は投資金額がゼロになるとは限りません。なぜなら、破綻した企業が債務の整理を行った後に残った資産は、株式などより優先して戻されるからです。

上位10位にあるかないかではなく、やはり組入れの有無を知りたい場合には、運用報告書で確認することができます。運用報告書は、必ずしも最新の情報ではありませんが、作成基準日時点での「全ての保有銘柄」を知ることができます。また、その保有銘柄について、「その時点での評価額」も掲載されていますので、気になる銘柄が、そのファンドに与えた影響の大きさも、ある程度、推測することができます。

2. 実は市場全体の動きの方が影響が大きいかもしれません

多くのファンドでは、組入銘柄の数を多くすることで、1銘柄あたりの影響度を小さく抑えるように運用しています。

また、意外と思われるかもしれませんが、ファンドによっては不安材料を抱える企業の有価証券をあえて保有している場合も考えられます。不安心理から価格が下落している場合には、本来の企業の価値よりも割安と考えられる場合もあるからです。その際には、将来的な見通しから積極的に投資していると言えるのかもしれません。



コールセンターからの小さなよみもの

このたびの金融危機では、企業等の破綻など不測の事態が数多く起こりました。しかし、ひとつの金融機関で不安材料が発表されると、即座に世界中の金融システムに対する不安材料となり、影響の範囲がその企業に留まらないケースが多く見られました。

つまり、グローバル化した現在においては、個々の銘柄の状態もさることながら、経済や市場全体の大きな動きや流れを注意して見ていくことがより重要であると考えられます。

ご不明な点、気になる点などがありましたら、
ぜひ日興AMコールセンターまでお問合せください。

nikko am

コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

